

# ホテルが住み着く河川 を目指して

令和4年11月14日（月）  
福井県嶺南振興局小浜土木事務所  
河川砂防課

# 1. 多田川の概要



## 2. 治水事業の概要



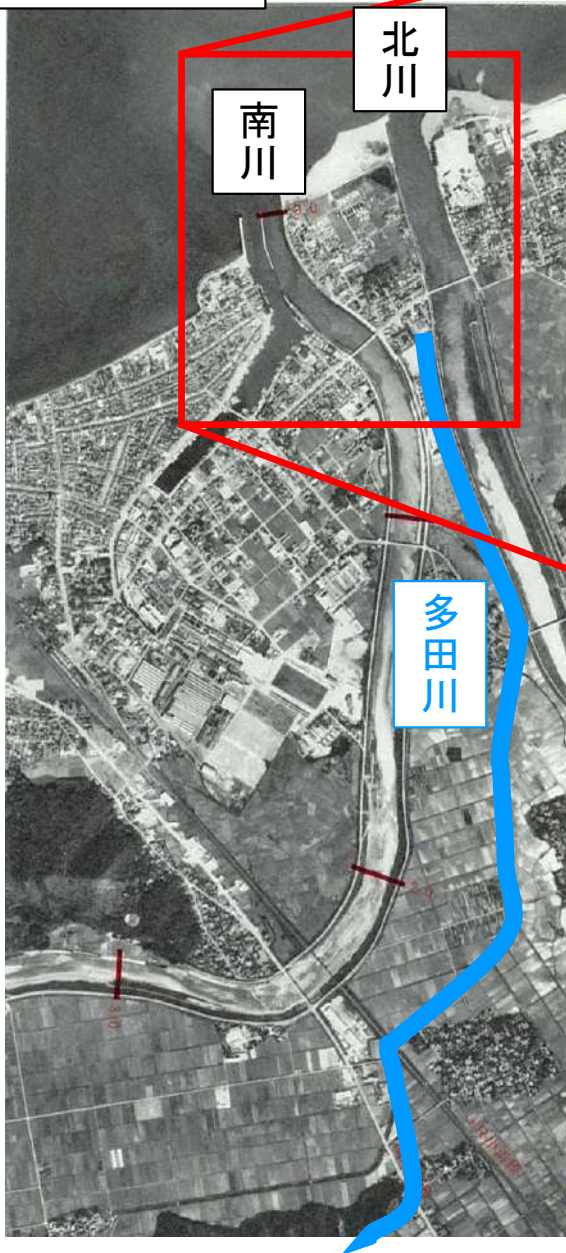
### 多田川事業概要

事業内容 : 河道付替、掘削護岸工、  
橋梁架替、用地補償  
事業期間 : 昭和44年～令和5年

浸水範囲  
■ : 昭和57年8月  
■ : 平成10年9月

# 3. 改修済区間の概要

昭和43年撮影



平成13年撮影



# 4. 河川整備計画の策定経緯

年月日	流域検討会	内容
H14.12.25	流域検討会 設立	嶺南地域の県管理河川を対象とした流域検討会を設立した
H14.12.25	第1回 嶺南地域流域検討会 開催	嶺南地域の7河川についての現状と課題について紹介
H15.3.24	第2回 嶺南地域流域検討会 開催	多田川についての現状と課題、河川整備計画(案)を説明し、 <u>委員より意見質問</u> を得た
H15.5.8	地元住民河川見学会 開催	地元住民・小学生、および環境専門家を交え河川見学会を開催し、 <u>多田川についてのヒアリング調査を実施</u>
H15.6.11	第3回 嶺南地域流域検討会 開催	委員からの質問の回答を報告し、河川整備計画(案)に対して委員に承認を得る
H15.8.20	多田川水系河川整備計画(案) 住民説明会 開催	河川整備計画(案)の内容について住民説明会を開催
H15.9.2	河川整備計画(案)に関するアンケート調査 実施	地域住民を対象に河川整備計画(案)に関するアンケート調査により意見聴取を実施
H15.11.10	第4回 嶺南地域流域検討会 開催	河川整備計画策定に向けた経過報告
H16.2.3	多田川水系河川整備基本方針 策定	近畿地方整備局の同意文書
H16.7.30	多田川水系河川整備計画 策定	近畿地方整備局の同意文書

## 意見

河川環境に配慮した河川整備の具体的内容を提示してほしい



- 多田川自然観察会を兼ねて、植物調査を実施
- 過去の多田川の河川環境についてヒアリング調査を実施



聞き取り調査からゲンジボタルの生息が確認された

## 流域検討会の様子



# 5. 環境情報図

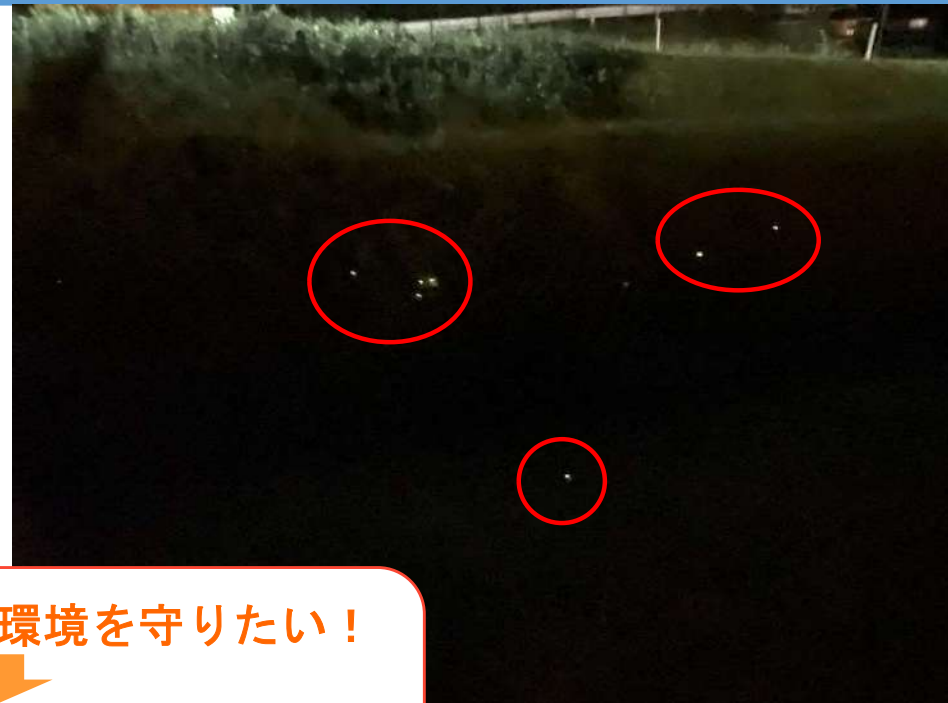


# 6. ホタル生息箇所



# 7. 実際のホタル生息状況

2022年5月末撮影



ホタルが暮らせる環境を守りたい！



河川改修にあたって  
専門家のアドバイスがほしい





## 8. 日本ホタル再生ねっと

ゲンジボタルに配慮した河川改修工事の計画を立てるため、福井県内のホタルに詳しい学識経験者である日本ホタル再生ねっとに相談を実施。

日本ホタル再生ねっととは・・・



- 福井県福井市にあるNPO法人。
- 環境保全、地域の発展への寄与を目的に、日本のホタル伝統文化を継承することを活動理念としている。
- ホタルを通じた「地域づくり」「里地・里山の復興」「人づくり」の3つを活動指針としている。

### 【主な活動内容】



**河川にホタルが飛び交う環境づくり**  
工業廃水や生活排水で汚染されず多くの生き物が住める環境に配慮した河川工事によってホタルが住める環境保全の普及に努める。



**農村と都市との交流**  
ホタル観賞会などを通じ、農村の自然の豊かさを都会の人たちに知ってもらい、里地・里山を農村と都会との交流の場を設ける。



**子供の環境教育・食育の体験学習**  
子供たちとその保護者を対象に、ホタル発光実験やホタル米の試食会などを通じ、環境と食に関する学習体験会を開催。

※出典：日本ホタル再生ねっとHP

# 9. 専門家からのアドバイス

平成31年4月

- 日本ホタル再生ねっとと現地調査を実施。
- ゲンジボタルの生態や、工事にあたっての注意事項等のアドバイスをいただいた。



## ゲンジボタルの生態

- ゲンジボタルはカワニナだけを食べるため、カワニナがいる環境を守る必要がある。
- 三面張りの河川にホタルはいない。カワニナやホタルの幼虫が流されて定着しないため。
- 出水時に流されないために、砂州や草地（陸域）が必要。
- 砂州の土質は、砂礫ではなく、草が生える程度の砂質土であること。

## 多田川の現状

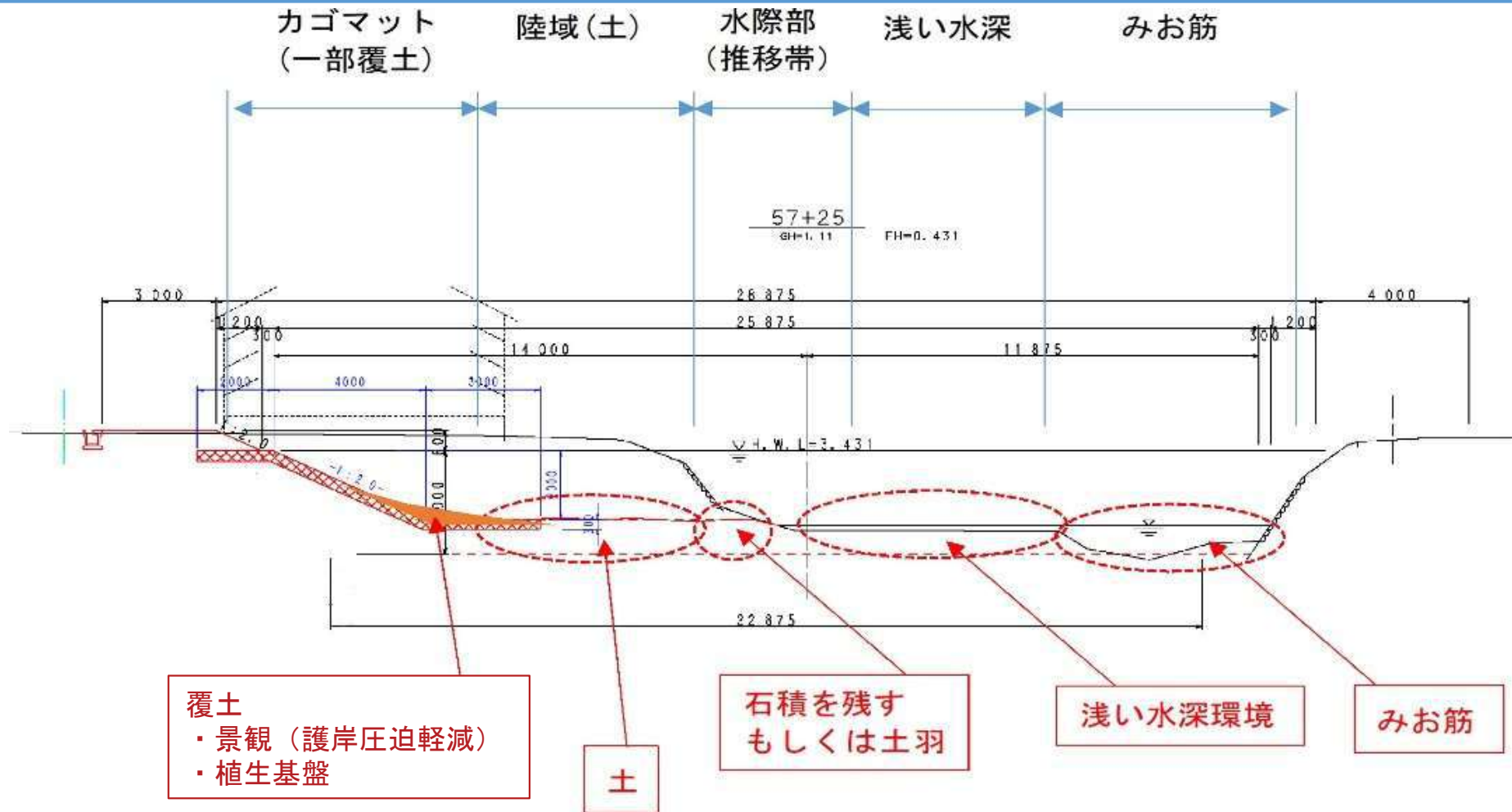
- 河道内に砂地があり、ツルヨシ等の植物が繁殖している。
- 農業用排水路の流入が少なく、農薬等の混入が無い。
- カワニナが生息している。

ホタルの生息に適した環境

## 工事での注意事項等

- 大規模な浚渫は避けること。
- 浚渫や河道掘削が必要な場合は、岸部の土砂を寄せて陸域をつくり、ホタルの休息場所を設けるよう工夫すること。
- ホタルは馬淵橋周辺に生息しており、橋から上下流を望むのが見やすい。

# 10. ホタルに配慮した河川改修計画



- 現況のみお筋位置を基本とし、右岸側は既存施設を残しながら、左岸のみを引堤する河川横断形とする。
- カワニナは水深約10~20cmを好むため、浅い水深環境を設ける。
- カワニナやホタルの幼虫が流されないよう、水際部や河床には礫・石を配置する。
- 左岸側は緩傾斜かつ砂質土で覆土し、ホタルの休息するための植生基盤を設ける。
- 種の絶滅を避けるため、施工区間割を極力細かくする。

# 11. 工事中の工夫（現況土砂による覆土）

護岸工事の際、既存護岸の  
前に土砂が堆積している

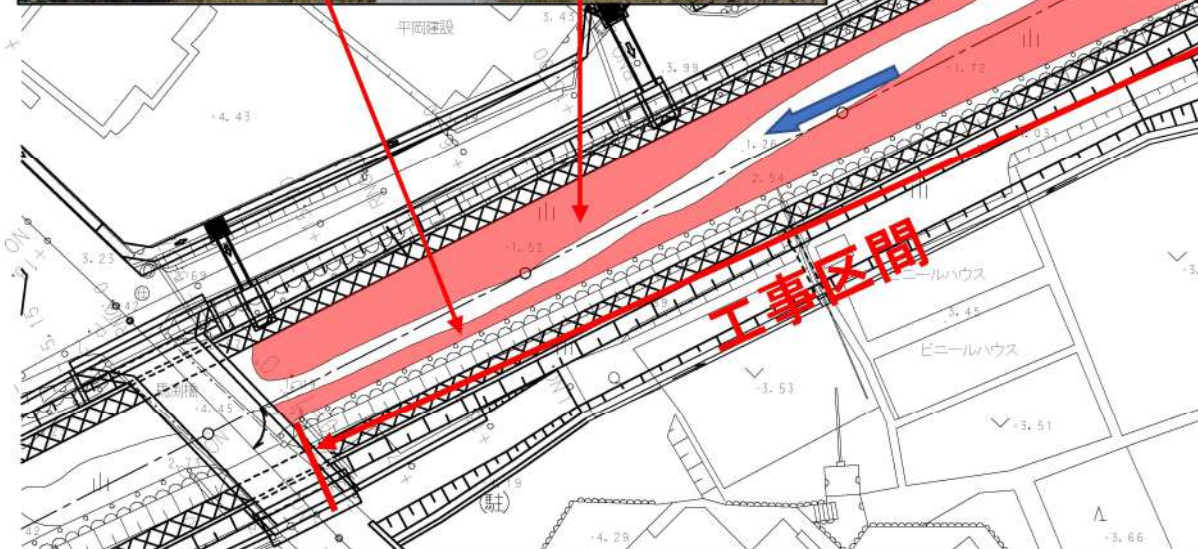


移植



着手前に土砂を移植  
（掘削土を上流部の覆土  
に活用）

工事区間



掘削土を覆土に活用することで既存  
植生を復元し、ホタルの住処・休息  
場所を確保する



## 12. 工事後の状況



生物の住処となる  
既存の植生が復元



ホタル・カワニナもいる？



来年モニタリングが必要

## まとめ

- 多田川には昔からゲンジボタルが生息している
- 河川改修について、ホタルに配慮した工事の計画・施工を実施
- 対策についての効果は、今後、ホタルの生息状況をモニタリング等で確認していく

ご清聴ありがとうございました